

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	全 員 協 議 会	場 所	全 員 協 議 会 室
		担 当 職 員	阿 久 根 由 美 子
日 時	平成 2 6 年 5 月 8 日 (木 曜 日) 開議 午後 1 時 0 0 分 閉議 午後 2 時 1 7 分		
出 席 議 員	議 員 2 6 名		
執行機関出席者			
事務局出席者	藤村局長、山内次長、阿久根副課長、山崎係長、三宅主任		
傍 聴	可・否	市民 1 名、報道関係者 0 名、執行機関 0 名	

会 議 の 概 要

1 3 : 0 0

1 開議

〔明田議長 開議〕

〔事務局長 日程説明〕

2 議員の定数・報酬について

<明田議長>

本件は議会運営委員会で議論されており、本日は議員全員の意見を聞くため全員協議会開催の要請を受けたもの。進行は湊委員長、藤本副委員長に交代する。

〔進行 明田議長→湊委員長〕

<湊委員長>

議運で議員定数、報酬を議論してきた。議員のアンケート調査結果により論点をしぼり、論点に沿って議論を行い、会派での意見も聞いてきた。本日は全議員の意見を聞く場とし、その後議運で方向付けを行う。6 月半ば又は 7 月ごろに最終的な決断をしたいと考えている。

<福井議員>

今までの経過、議論を説明願う。

< 湊委員長 >

議運への諮問を受け、アンケート調査結果からの論点で議論を行い、会派での意見も聞かせてもらった。アンケート調査結果、論点による議論結果をまとめたものは確認されていると思う。各議員の意見を順次伺う。

< 石野議員 >

（定数）法定定数 30 人に 2 割削減が全国平均である。24 人で十分。

（報酬）平成 19 年に 1 万円下げ現行の 44 万円になった。元に戻して検討すればよい。

< 西口議員 >

（定数）全国平均の減員率に合わせ 2 割削減をしてから議論すればよい。減数分の財源を市民福祉の向上に資する事業に充て、議会から政策発信すればよい。

< 日高議員 >

（定数）3 常任委員会×7 人+議長、監査委員の 23 人。

（報酬）遠距離の交通費、通信費が負担である。45 万円に増額の方向で。

< 山本議員 >

（定数）3 常任委員会×7 人+議長、監査委員の 23 人。議員 1 人当たりの人口からみても適当である。

（報酬）様々な年齢層が議員になれるよう増額。

< 馬場議員 >

（定数）30 人の時には 4 常任委員会であった。議員は努力しているがチェック機能低下は否めない。現行の 26 人が妥当。京都府下のなかで本市議会は議員 1 人当たりの人口が多くコストパフォーマンスが高い。現行又は増数により議会力を高めるべき。

（報酬）定数に関係なく議論すべき。遠距離の交通費は負担で、政務活動費でみていくところもある。年金もなくなり将来保障がないので若い世代の議員は集まらない。労働者として当たり前の年収確保が必要である。第三者機関の報酬審議会に諮問すればよい。

< 田中議員 >

（定数）市民の代表としての機能を果たせることが大切、現行が妥当。

（報酬）定数とは切り離して考えるべき。他の収入がないと議員になれない状況にするべきではない。少なくとも現行。

< 立花議員 >

（定数）26 人～30 人。減数すると人口の少ない地域、女性、青年などが議員にな

りにくくなる。最低でも 26 人。減数すると特別委員会の議論がさらに不十分となる、8 人は必要である。職員は行革で削減して非常勤を雇用しているが議員はそれも出来ない。これ以上の定数削減の議論は不要である。

（報酬）広く意見を聞くのが本来の役割である。交通費の実費支給も必要でこれ以上上げるべきでない。

< 並河議員 >

（定数）常任委員が減ると議論尽くせず役割果たせない。現行が妥当。

（報酬）報酬審議会で諮るべき。現行又は 45 万円に戻すべき。

< 苗村議員 >

（定数）削減したのに今議論するのは何故か。議員団研修で常任委員は 8 人が妥当と聞いた。減らす理由はない。

（報酬）市民は議員の年金や退職金がないことに驚いている。これでは若い人が議員になろうと思わない。ボランティア精神でできるものではない。最低でも現行。遠距離の交通費の支給が必要。

< 井上議員 >

（定数）人口、市域の割合からも突出していない、今のままだが妥当。

（報酬）現行。

中身を知らない市民に意見を聞けば減数、減額だろう。

< 酒井議員 >

議会改革推進特別委員会で議論されてきたがその論点がつぶされていない。定数、報酬を一緒に議論する理由も分からない。特別委員会で議員と議会の役割を考えなければならないと言っておきながら、明らかになっていない。いま果たしているのかも分からない。なぜ定数、報酬からさわろうとするのか。議会がきちんと機能するために十分なのか、そこからみないといけないはず。現状に合わせて考えるべきものではない。見直しの目的が全く分からない。今までの意見の根拠もよく分からない。何を目的にやっているのか明確にしておかなければならないものだと思う。目的、論点もよく分からないし、自分たちの処遇をどうするのかという話をしている訳ではない、議論がきちんとできないのなら将来の議会に関わることを今ここで決めるべきではない。

< 福井議員 >

アンケート調査では定数 18 人、報酬 60 万円とした。選挙に候補者が倍くらい出ればよいと思ったからである。議論、経過のなかで 3 常任委員会×7 人+議長、監査委員の 23 人が妥当だと今は思っている。本来は何を目指して改正するのかについて少なくともコンセンサスが必要である。

< 齊藤議員 >

（定数）減らすなら 23 人。

（報酬）議員が一生懸命仕事をして報酬を上げることが本来であり、自ら値打ちを下げるのはどうかと思う。会派の意見で進む。

< 中村議員 >

（定数）3 常任委員会×7 人+議長、監査委員の 23 人。定数削減分は自治会の事業に充てる手法を考えていけばよい。

（報酬）現行。

< 眞継議員 >

（定数）常任委員を 7 人に減らして、減らすことで議員が変わらなければならないことを認識する必要がある。そのために 7 人の形を一旦とってもよいのではないかと思う。毎日出勤していないが、委員会の課題にもっと時間をかけるなど働き方を変えるべきで、減数をその機会にするべき。

（報酬）議会の果たす役割を追求すると、議員が必要な知識、技能を努力して身に付けなければならない。その費用は政務活動費で賄うものである。報酬は現行で、政務活動費を個人に支給し大幅に上げてもらいたい。

< 西村議員 >

市民ニーズに影響を受ける。意見は会派の意見のとおり。

< 中澤議員 >

（定数）会派の意見のとおり。人口からみると 22 人になるかと思うが、広大な市域のため 22～24 人が妥当。

（報酬）現行。政務活動費の充実で議員力アップを図っていけばよい。

< 堤議員 >

（定数）議員は地域代表ではなく市全体で選ばれている。地方分権、議会改革が進み、2 人減数しても調査、審査機能は低下しない。しっかりやることが議員の使命である。

（報酬）従前どおり報酬審議会で意見を聞けばよいと思う。政務活動費は議会機能を高め、市民の意見も十分聞けるよう増額を考えればよい。

< 竹田議員 >

（定数）委員会のあり方を考えるべき。委員は偶数であるべき。予算・決算常任委員会を加え 4 常任委員会にすればどうか。今までしっかり審議できているのか、現状を見つめ議論する必要がある。現行が妥当。

（報酬）定数とは切り離して考えるべき。報酬審議会などで議論してもらいたい。

< 吉田議員 >

（定数）常任委員ベースで考えるのが良いのか分からない。総務文教常任委員会は多岐にわたっており、審査充実、政策提言などをするには今のままでは難しい。4 常任委員会が必要。活動量からみて減らすことは考えられない。30 人を上回るのは勇気がいる。選挙の競争率は市民が議員にどれだけなりたいかであり、数を減らせば競争率が上がるとは限らず、増やせば議員になれるかもしれないと立候補する人もいるかもしれない。できれば増数。最低限現行。

（報酬）理事者（部長、課長）より少ないのは異常だと思う。最低でも現行。部長水準に引き上げればよい。現行では若い世代が議員になろうと思わない。

< 菱田議員 >

（定数）現行 3 常任委員会で機能果たせている。委員は奇数がよく、3 常任委員会 × 7 人 + 議長、監査委員の 23 人が妥当。

（報酬）報酬は給料でない。議員の質をあげるべきでしっかり勉強しないといけない、報酬は増の方向で。そうでないと幅広い世代が議員になれない。

< 木曾議員 >

（定数）現行が望ましい。常任委員会の議論が深まるよう考えなければいけない。人口比率の面で適当かはもう少し考える必要がある。

（報酬）生活給ではないことを認識する必要がある。基本的には給与になるよう持っていく、生活保障もできるようにしていかなければならない。本来の活動を活性化させ政務活動費を上げる必要もある。

< 明田議長 >

（定数）削減が必要。

（報酬）現行。

< 小島副議長 >

（定数）24 人。常任委員会は予算・決算を加え 4 常任委員会にするべき。

（報酬）上げてほしい。通信機器を使う必要があり負担である。政務活動費の幅を広げることも考えるべき。

< 藤本副委員長 >

（定数）議員団研修で 5～10 万人都市の平均議員定数は 22.4 人、1 議員当たりの人口は 6,051 人と聞いた。3 常任委員会で 23 から 26 人で検討すべきかと思う。1 議員当たりの本市人口は 26 人で 3,566 人、23 人でも 4,032 人で、いずれも全国平均より少ない。23 人の方が全国平均に近い。1 議員当たりの面積では京都府平均が 9.50 km²、本市 23 人の場合 9.78 km²で平均並み。奇数がよい。23 人でやってみて必要ならさらに検討すればよい。

（報酬）5～10 万人都市の市議会平均 38.9 万円で、44 万円は特別安くもない。

60 万円で突出していてもよいと思うが、市民の納得する理由が必要である。
政務活動費が平均以下なので上げて、議員の負担は少なく活動できることが必要である。

< 湊委員長 >

意見を要約すると、定数は現行、増数、減数それぞれの意見があった。根拠は委員会構成、人口・面積、議員の資質によるもの。

報酬は現行又は増額の意見である。

減数の場合は議会の政策提言事業に充てる、政務活動費の見直し、報酬審議会諮問の意見もあった。

今日の意見を議運に持ち帰り議論する。意見が変わるようなら議運委員に伝えてもらいたい。

< 堤議員 >

どうまとめるのか、全員賛成にならない。

< 湊委員長 >

議運で方向性を決める。再度全員協議会を開催願い、採決で決定したいと考えている。

〔 進行 湊委員長→明田議長 〕

3 その他

〔 事務局長 エコオフィス期間、当面の日程連絡 〕

散会 14 : 17